

平成 29 年度 海外研修実施結果（概要）

開拓者の国際感覚の涵養と農業経営の向上を図り、開拓者の農業経営の発展と開拓者農の推進に寄与することを目的とし、海外研修事業を行っております。

本年度はドイツ連邦共和国・オランダ・フランス共和国において、平成 29 年 9 月 17 日から 24 日（8 日間）の研修を実施し、14 名（うち事務局 3 名）が参加しました。研修日程および研修概要は次のとおりです。

平成29年度 海外研修事業【研修日程】					
	月日曜	都市名/滞在地名	現地時間	交通機関	摘 要
1	9月17日 (日)	羽田空港 羽田空港 ミュンヘン空港 【日本との時差：-7時間】	9:30 12:30 17:20 18:00	NH217 専用車/ガイド	羽田空港集合、オリエンテーション・結団式 空路、ミュンヘンへ 【所要：11時間50分】 ☆到着後、市内視察（夕食）、ホテルへ (ミュンヘン 泊)
2	9月18日 (月)	ミュンヘン	9:00~17:00 18:00頃	専用車/通訳	■視察① 農民協会/セミナー ■視察② OKOLAND RINDERHOF GBR/肉用牛農場 夕食、ホテルへ (ミュンヘン 泊)
3	9月19日 (火)	ミュンヘン ミュンヘン空港 アムステルダム空港	9:00~13:00 14:45 16:15 17:00	専用車/ガイド LH2306 専用車	■視察③ ミュンヘン中央卸売市場 ☆市内視察（旧市街地巡り他） 視察後、空港へ 空路、アムステルダムへ 【所要：1時間30分】 到着後夕食、ホテルへ (アムステルダム 泊)
4	9月20日 (水)	アムステルダム	9:00~17:00 18:00頃	専用車/通訳	■視察④ コープマン/チーズ農家 ■視察⑤ Dairy Campus/酪農・研究機関 夕食、ホテルへ (アムステルダム 泊)
5	9月21日 (木)	アムステルダム アムステルダム空港 パリ・シャルルドゴール空港	9:00~13:00 14:40 15:55 16:30	専用車/ガイド AF1741 専用車/ガイド	☆市内視察（ダム広場・王宮他） 視察後、空港へ 空路、パリへ 【所要：1時間15分】 到着後夕食、ホテルへ (パリ 泊)
6	9月22日 (金)	パリ	9:00~17:00 18:00頃	専用車/通訳	■視察⑥ ランジス市場 ■視察⑦ クラヴァン野菜農場/野菜・果物農家 夕食、ホテルへ (パリ 泊)
7	9月23日 (土)	パリ パリ・シャルルドゴール空港	9:00~17:00 20:05	専用車/ガイド NH216	☆市内視察 （ノートルダム寺院、シャンゼリゼ通り等 + 自由行動） 空路、羽田空港へ 【所要：11時間45分】 (機内 泊)
8	9月24日 (日)	羽田空港	14:55		通関後、解散

【研修概要】

公益社団法人全国開拓振興協会
牧野 展也

研修期間：平成 29 年 9 月 17 日～24 日
視察国：ドイツ、オランダ、フランス
参加人数：14 名（男性 10 名、女性 4 名）

9 月 17 日

- 9：30 羽田空港集合
- 10：00 結団式（研修での連絡事項、自己紹介他）
- 11：00 結団式終了後、通関出国手続き
- 12：30 全日空 NH217 便で一路ミュンヘン空港へ
- 17：00 ミュンヘン空港到着。
- 19：00 ホテルにて夕食。

9 月 18 日

- 9：30 ホテル発→バイエルン州農民協会
- 10：10 **バイエルン州農民協会**のセミナーでエアトル氏（農業、畜産）とカエラ氏（酪農、乳製品）よりドイツ国内の農畜産業の概要説明を受ける。バイエルン州には 10 万 9 千戸の農家がありドイツ全体の 1/3 を占める。その 1 戸あたりの平均農地面積は 28 ha。酪農は VMB（酪農生産者協会）で組織され、直接メーカーと乳価交渉する。経営規模は搾乳牛平均 54 頭（日本は 84 頭）で、20-49 頭規模が最も多く、50-99 頭が増加中、メガファームは少なく家族経営が主体。搾乳ロボットの普及率は約 5 割。また、ドイツ酪農では、牛の健康、体力、長命を 3 大目標としている。



- 14：30 ミュンヘン郊外のリンダーホフ農場（肉用牛と畑作複合経営）視察。農場主のカインツ氏に説明を受ける。農地は 340 ha で 240 ha が畑作（ジャガイモ、小麦等）、100 ha が牧草地。

肉牛はリモサーン種で和牛との交雑も含め 80 頭。肥育 2 年目以降は放牧し約 26 ヶ月肥育とのこと。



17:30 ミュンヘン中心街のマリエン広場周辺で自由散策後、夕食は荘厳な市庁舎の地下のビアホールレストランで。



9月19日

8:00 ホテル出発→**ミュンヘン中央卸売市場**

9:30 中央卸売市場では、通訳の小久保さんが日本人で数少ない市場ライセンスを取得されており、場内の案内や説明もスムーズでした。当市場は EU で 3 番目の規模でミュンヘン 140 万人とその周辺地域までをフォローしている。

因みに、歴史は古く、食肉は 700 年前の中世肉問屋にさかのぼり、市場として開設されて 200 年となる。

10:30 ミュンヘン空港へ行く途中、BMW 本社ショールームを見学。

11:30 空港内にて昼食

14:45 アムステルダムへはルフトハンザ航空の共同運航便のイタリア航空機で移動。

16:45 アムステルダム・スキポール空港へ到着。
夕食はホテルで。

9月20日

8:20 ホテル出発→**コープマン・チーズ農家**へ

オランダ農業は、制約された立地条件のため、高効率集約農業で

生産性が高く、農業輸出高は世界第2位。

- 9:15 **コープマン・チーズ農家**ではご夫妻に乳牛の飼育管理からチーズ製造の工程までその一貫体制につき詳しく説明を受ける。
チーズは、ゴーダとエダムのハード系（オランダの主流）を1981年から製品化しており、国内全域に販売している。搾乳牛は100頭を飼育。年間9500ℓ/頭のほとんどがチーズの原料となっている。



- 11:15 本日2ヶ所目の研修先となるデイリー・キャンパスへ移動。
途中、海を貫く長大な堤防の途中で小休止し、「世界は神が創ったが、オランダはオランダ人が創った」との名言を実感し、30 kmを渡り、ほどなく目的地へ到着。
- 13:00 **デイリー・キャンパス（酪農研究機関）**では、場内視察前にオランダ国内の農業酪農事情について同機関のエイケさんから事前セミナーを受ける。当研究機関におけるオランダ国内に向けた酪農研究は200テーマにもものぼるとのこと。
この後、牛舎や搾乳施設を視察。



- 16:30 この日の研修を終え、アムステルダム市内の、どこを切り取っても絵になる色鮮やかな町並みを歩き、中華レストランで夕食。



9月21日

- 9:00 パリ郊外のメルキュールホテルを出発。
この日は移動日で、郊外の風車や運河を見た後、中心部のダム広場で約1時間の自由散策としました。
- 12:00 スキポール空港到着後、各自空港内で自由昼食。
- 14:40 スキポール空港からエールフランス機でパリへ。
- 16:00 パリ・オルレー空港へ定刻通り到着。
- 17:00 夕食はホテルで。

9月22日

- 7:30 ホテル出発。
- 8:30 フランスの**ランジス市場**視察。

ランジス市場は、EUでも最大規模の卸売市場だけあって、食肉エリアから乳製品、野菜、果樹、花等広大なエリアの主要部分をガイドのネルさんに案内いただき、その種類の多さに圧倒された。

フランスのメジャーなチーズはカマンベールなどのソフトチーズでその種類の多さは当然ながら日本とは桁違いだ。



- 11:00 早めの昼食は市内のベルギー料理店で。
- 14:00 本研修会最後の目的地は、パリ郊外の**クラヴァン野菜農家**。
当畑作農家では、有機農法による野菜生産方法の説明を受け、フランス特産のトマト(皮が薄く食べやすく甘い)の試食などもあった。



17:00 パリ市内のレストランで夕食及び解団式。

9月23日

9:00 ホテル発。この日は最終日で午前中は市内の街並みやフリーマーケットなどを見学し、観光では、やはりノートルダム寺院のステンドグラスは圧巻。昼食後、ルーブル美術館まで全員で行き、各自、自由行動とし、16:00 にホテルへ再集合とした。



16:30 無事全員再集合の後、パリ・オルレー空港へ。

17:45 空港到着後、各自最後のお土産などを購入し、51番ゲートへ集合。

20:05 全日空 NH216 便で定刻通り一路羽田へ。

9月24日

14:45 羽田空港到着。入国審査後、バゲッジルームにて研修の無事完了と参加者及び添乗員さんへ感謝を伝え解散した。

以上3カ国の農業畜産研修では、いずれも、参加者からの活発な質問もあり有意義な視察であったと考えます。業種別のバランスも肉牛、酪農、乳製品製造、畑作、市場視察（2ヶ所）と限られたタイムスケジュールで無理なく視察研修できたものと思います。

また、今回訪問した各都市全てが世界遺産でもあり、歴史遺産に対する国民の深い理解と意識の高さを実感しました。

最後に、事故無く当初の研修目的を達成できたのも、ひとえに参加者全員のご理解ご協力の賜と心より感謝申し上げます。

